

平成28年度夏の企画展

むなかたの漂着物展

海流のチカラ



会場 海の道むなかた館企画展示ブース

会期 平成28年7月20日(水)～9月4日(日)

入場 無料 **主催** 宗像市・宗像市教育委員会

お問い合わせ 海の道むなかた館 〒811-3504
福岡県宗像市深田588番地

TEL0940-62-2600 FAX0940-62-2601

むなかたの漂着物展 — 海流のチカラ —

宗像市は、^{かつしま}勝島、^{じのしま}地島、^{おおしま}大島、^{おきのしま}沖ノ島の離島に加え、市域の北西部には「パラソルのふち」にも例えられる長大な海岸線を持ち、多くの漂着物が流れ着きます。漂着には海流と季節風が深く関わっており、^{せんぱく}船舶はもちろん、他にも様々な物を運び、大きな恵みをもたらしました。

また、^{むなかたたいしゃ}宗像大社に残る古文書によると、^{かんき}寛喜三(1231)年以前に^{おんがくんあしやまち}遠賀郡芦屋町から^{かすやくんしんぐうまち}糟屋郡新宮町までの区間に漂着した船舶やその積荷を、大社の七十余りの^{せつしゃ}撰社・^{まつしゃ}末社の^{しゅうぜんりょう}修繕料に充てていたと記されています。

この漂着物については、漂着物研究の第一人者である故石井忠氏をご紹介しなくてははいけません。石井氏は、漂着した物の歴史や文化を読み解いていく「^{かいひんひょうちやくぶつぶんかろん}海浜漂着物文化論」を^{ていしやう}提唱し、2001年には7人の同志とともに「^{ひょうちやくぶつがっかい}漂着物学会」を創設して^{そうせつ}初代会長に^{しゅうにん}就任しました。本市においても市文化財保護審議会の会長などを務めていただき、幅広い見識をもって文化財保護行政を指導していただきました。

本展示会は、^{よりのもの}ロマンを感じる寄物から、マイクロプラスチックのような環境へ悪影響を与えるものまで展示・解説し、私たちにも可能な環境を守る方法をご紹介します。この展示会を通じて、本市の海辺から広がる美しい^{つな}玄界灘を未来へと繋ぐ^{かて}糧となることを願っています。

展示品について



ココヤシ

漂着物と言えばやはりヤシの実です。これは「ココヤシ」と呼ばれる種類で、樹高は大きいもので約30メートル、葉の長さは約5メートルにもなり、ココナッツジュースやココナッツミルクなどの原料となります。



モダマ

イギリスの^{どうわ}童話『ジャックと豆の木』に登場する豆の木のモデルとも言われている「モダマ」の種です。成長すると高さ20mを超えることもあります。マメのさやは木質で長さ1m、幅10cmにもなり、中には直径5cm程度の種子が9～13個も入っています。



オウムガイ

約4億年前に現れた生きた化石とも言える「オウムガイ」です。種としては、^{ぜつめつ}絶滅したアンモナイトよりも古い生物です。水深600メートルまで潜ることが出来ますが、素早く泳ぐのは苦手です。

マイクロプラスチック

近年注目されているマイクロプラスチックです。5^{ミリ}以下のプラスチックの破片で、海中に漂う有害物質を^{ゆうがいぶつしつ}吸着し、^{きゅうちやく}濃縮していることが分かりました。このマイクロプラスチックを小魚が食べ、その小魚を大型魚が食べ、最後に人間が食べることにより、濃縮された有害物質が体に取り込まれ、健康被害が起きることが懸念されています。

